

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 17 年 7 月 14 日 (2005.7.14)

【公開番号】特開 2005-79954 (P2005-79954A)
 【公開日】平成 17 年 3 月 24 日 (2005.3.24)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-012
 【出願番号】特願 2003-308498 (P2003-308498)
 【国際特許分類第 7 版】

H 0 4 N 5/76

G 1 1 B 20/10

G 1 1 B 27/00

H 0 4 N 5/93

【F I】

H 0 4 N 5/76 Z

G 1 1 B 20/10 3 0 1 Z

G 1 1 B 27/00 D

H 0 4 N 5/93 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 1 月 14 日 (2005.1.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

コンテンツ信号の受信処理を行う少なくとも第 1、第 2 の受信処理部と、
上記第 1、第 2 の受信処理部で得られる各コンテンツ信号を同時に記録媒体に記録又は
再生処理を行う記録再生処理部と、
上記受信処理部から出力されるコンテンツ信号、又は上記記録媒体から再生されるコン
テンツ信号を所定の出力部に出力させる出力処理部と、
ユーザー操作のための操作部と、
上記操作部で指示されたチャンネルのコンテンツ信号を、上記第 1 の受信処理部で得て
上記出力部に出力させながら、第 1 のコンテンツファイルとして上記記録媒体へ記録して
おり、また、上記第 2 の受信処理部で得られる或るチャンネルのコンテンツ信号を第 2 の
コンテンツファイルとして上記記録媒体に記録している、同時記録実行中に、上記操作部
により再生関連操作が行われた場合、上記第 1、第 2 の受信処理部が同一チャンネルの受
信処理を行っているのであれば、上記第 2 のコンテンツファイルに対する再生関連処理を
実行させる制御部と、
を備えたことを特徴とする記録再生装置。

【請求項 2】

上記制御部は、上記同時記録実行中に、上記操作部により再生関連操作が行われた場合
、上記第 1、第 2 の受信処理部が異なるチャンネルの受信処理を行っているのであれば、
上記第 1 のコンテンツファイルに対する再生関連処理を実行させることを特徴とする請求
項 1 に記載の記録再生装置。

【請求項 3】

上記コンテンツ信号の記録は、放送コンテンツを録画することを特徴とする請求項 1 に
記載の記録再生装置。

【請求項 4】

上記コンテンツ信号の記録は、オーディオ放送を録音することを特徴とする請求項 1 に記載の記録再生装置。

【請求項 5】

上記再生関連処理は、頭出しサーチ、早戻しサーチ、早送りサーチ、通常再生、又は変速再生であることを特徴とする請求項 1 に記載の記録再生装置。

【請求項 6】

上記第 1 のコンテンツファイルとして上記記録媒体への記録は、上記操作部の操作に応じて開始されることを特徴とする請求項 1 に記載の記録再生装置。

【請求項 7】

上記操作部の操作に応じて、チャンネル切り換え時点からのコンテンツを上記第 1 のコンテンツファイルとして上記記録媒体への記録することを特徴とする請求項 1 に記載の記録再生装置。

【請求項 8】

上記第 2 のコンテンツファイルとして上記記録媒体への記録は、予約録画、自動録画、又は手動録画としての通常録画による記録であることを特徴とする請求項 1 に記載の記録再生装置。

【請求項 9】

上記自動録画は、ユーザーの視聴履歴又は録画履歴から自動的にコンテンツを選択して行う録画であることを特徴とする請求項 8 に記載の記録再生装置。

【請求項 10】

上記記録媒体に記録される上記第 1、第 2 のコンテンツファイルには各々ユニークなコードが付されることを特徴とする請求項 1 に記載の記録再生装置。

【請求項 11】

コンテンツ信号の受信処理を行う少なくとも第 1、第 2 の受信処理部と、
上記第 1、第 2 の受信処理部で得られる各コンテンツ信号を同時に記録媒体に記録又は再生処理を行う記録再生処理部と、
上記受信処理部から出力されるコンテンツ信号、又は上記記録再生処理部によって記録媒体から再生されるコンテンツ信号を所定の出力部に出力させる出力処理部と、
ユーザー操作のための操作部と、
を備える記録再生装置における再生処理方法として、
上記操作部で指示されたチャンネルのコンテンツ信号を、上記第 1 の受信処理部で得て上記出力部に出力させながら、第 1 のコンテンツファイルとして記録媒体へ記録する第 1 の受信及び記録ステップと、
上記第 2 の受信処理部で得られる或るチャンネルのコンテンツ信号を第 2 のコンテンツファイルとして記録媒体に記録する第 2 の受信及び記録ステップと、
上記第 1、第 2 の受信及び記録ステップが同時に実行されているときに上記操作部により再生関連操作が行われた場合、上記第 1、第 2 の受信処理部が同一のチャンネルの受信処理を行っていれば上記第 2 のコンテンツファイルに対する再生関連処理を実行する再生ステップと、
を備えることを特徴とする再生処理方法。

【請求項 12】

上記再生ステップは、上記第 1、第 2 の受信処理部が異なるチャンネルの受信処理を行っていれば上記第 1 のコンテンツファイルに対する再生関連処理を実行することを特徴とする請求項 11 に記載の再生処理方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 1 】

本発明は、放送コンテンツ等のコンテンツ信号を受信し、また記録再生することのできる記録再生装置、及びその再生処理方法に関するものである。

【 手続補正 3 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 3

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 1 3 】

そこで本発明は、複数の受信処理手段を備え、各受信処理手段で受信された放送コンテンツ信号等を同時に記録再生できるビデオレコーダのような記録再生装置において、ユーザーの操作性を良好とし、利便性を向上させることを目的とする。

【 手続補正 4 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 4

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 1 4 】

本発明の記録再生装置は、コンテンツ信号の受信処理を行う少なくとも第 1、第 2 の受信処理部と、上記第 1、第 2 の受信処理部で得られる各コンテンツ信号を同時に記録媒体に記録又は再生処理を行う記録再生処理部と、制御部とを備える。この制御部は、上記受信処理部から出力されるコンテンツ信号、又は上記記録媒体から再生されるコンテンツ信号を所定の出力部に出力させる出力処理部と、ユーザー操作のための操作部と、上記操作部で指示されたチャンネルのコンテンツ信号を、上記第 1 の受信処理部で得て上記出力部に出力させながら、第 1 のコンテンツファイルとして上記記録媒体へ記録しており、また、上記第 2 の受信処理部で得られる或るチャンネルのコンテンツ信号を第 2 のコンテンツファイルとして上記記録媒体に記録している、同時記録実行中に、上記操作部により再生関連操作（例えば頭出しサーチ、早戻しサーチ、早送りサーチ、通常再生、変速再生等）が行われた場合、上記第 1、第 2 の受信処理部が同一チャンネルの受信処理を行っているのであれば、上記第 2 のコンテンツファイルに対する再生関連処理を実行させる。

また上記制御部は、上記同時記録実行中に、上記操作部により再生関連操作が行われた場合、上記第 1、第 2 の受信処理部が異なるチャンネルの受信処理を行っているのであれば、上記第 1 のコンテンツファイルに対する再生関連処理を実行させる。

上記コンテンツ信号の記録とは、放送コンテンツを録画や、オーディオ放送の録音等である。

【 手続補正 5 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 5

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 1 5 】

本発明の再生処理方法は、コンテンツ信号の受信処理を行う少なくとも第 1、第 2 の受信処理部と、上記第 1、第 2 の受信処理部で得られる各コンテンツ信号を同時に記録媒体に記録又は再生処理を行う記録再生処理部と、上記受信処理部から出力されるコンテンツ信号、又は上記記録再生処理部によって記録媒体から再生されるコンテンツ信号を所定の出力部に出力させる出力処理部と、ユーザー操作のための操作部とを備える記録再生装置における再生処理方法である。そして、上記操作部で指示されたチャンネルのコンテンツ信号を、上記第 1 の受信処理部で得て上記出力部に出力させながら、第 1 のコンテンツファイルとして記録媒体へ記録する第 1 の受信及び記録ステップと、上記第 2 の受信処理部で得られる或るチャンネルのコンテンツ信号を第 2 のコンテンツファイルとして記録媒体

に記録する第2の受信及び記録ステップと、上記第1，第2の受信及び記録ステップが同時に実行されているときに上記操作部により再生関連操作が行われた場合、上記第1，第2の受信処理部が同一のチャンネルの受信処理を行っていれば上記第2のコンテンツファイルに対する再生関連処理を実行する再生ステップとを備える。

また上記再生ステップは、上記第1，第2の受信処理部が異なるチャンネルの受信処理を行っていれば上記第1のコンテンツファイルに対する再生関連処理を実行する。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

このような本発明では、第1の受信処理部で受信復調されるコンテンツの映像等をライブ視聴中のユーザーが、再生関連操作を行った場合に、記録されたコンテンツファイルの中でユーザーにとって最も適切なコンテンツファイルの再生処理が行われる。

即ち、ユーザーの視聴中の再生関連操作は、通常、視聴中の番組の再生映像を求めるものであるため、第1の受信処理部で得られるコンテンツのライブ録画と、第2の受信処理部で得られるコンテンツの通常録画が異なるチャンネルの番組である場合は、ライブ録画された映像（第1のコンテンツファイル）を再生処理することが適切である。一方、もし、第1の受信処理部で得られるコンテンツのライブ録画と、第2の受信処理部で得られるコンテンツの通常録画が同じチャンネルの番組である場合は、通常録画した映像（第2のコンテンツファイル）は、番組の最初から録画されているものであることが多いため、ユーザーが再生を求めた場合は、第2のコンテンツファイルの再生処理を行うことが適切となる。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

本発明によれば、第1の受信処理部で得られるコンテンツの視聴及びライブ録画（第1のコンテンツファイルの録画）と、第2の受信処理部で得られるコンテンツの通常録画（第2のコンテンツファイルの録画）が同時に実行されている場合、ユーザーが再生関連操作を行った場合は、もし第1，第2の受信処理部の受信チャンネルが異なれば、第1のコンテンツファイルの再生処理が行われ、第1，第2の受信処理部の受信チャンネルが同一であれば、第2のコンテンツファイルの再生処理が行われる。これによって、ユーザーが視聴中に再生を希望する操作を行った場合に、適切なコンテンツファイルを対象として再生処理できることになる。つまりユーザーにとっては、視聴中に、視聴中の番組についての直前の映像や番組の最初からの映像を簡易な操作で見ることができるようになり、操作性や利便性を大きく向上させることができる。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

図3には、t2時点以降での、ストレージ18に形成されるコンテンツファイルの様子を示している。

コンテンツファイルFL1，FL2・・・は、それ以前に録画されたコンテンツファイルを示しており、それぞれタイトルID（ID1，ID2・・・）としてユニークなコー

ドが付与される。

t 2 時点以降の期間は、ユーザーが c h 1 を視聴しているため、c h 1 のライブ録画が行われている。このため、ライブ用チューナ 1 で得られた映像信号及び音声信号の録画が図示するコンテンツファイル F L m として記録されている状態である。

また、録画用チューナ 2 により得られる映像信号及び音声信号の通常録画としては、t 0 時点以降継続して c h 1 の番組について行われている。これがコンテンツファイル F L n として記録されている。

そしてこの場合、コンテンツファイル F L m にはタイトル I D (I D m) が付与され、コンテンツファイル F L n にはタイトル I D (I D n) が付与された状態を示している。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

本例のデジタルビデオレコーダでは、ライブ映像の視聴中にライブ録画を行っていることにより、ユーザーが再生関連操作を行うと、視聴中の番組の再生映像を出力させることができるようにされている。上述もしたが、再生関連操作とは、例えば頭出し、早戻し、早送り等のサーチ、通常再生、変速再生など、記録媒体からの再生映像をディスプレイに表示させる状況にかかる操作のことである。

例えばライブ用チューナ 1 で c h 4 を受信している t 1 ~ t 2 の期間内のある時点でユーザーが早戻し等の操作を行えば、c h 4 のライブ録画によるコンテンツファイルをストレージ 1 8 から再生し、その再生映像を c h 4 のライブ映像に代わってディスプレイ 1 2 に表示させることができる。これによって、例えば見ている番組の直前のシーンなどを見直すことができる。